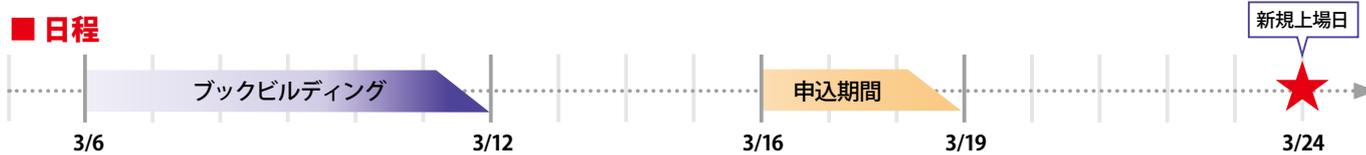


IPO銘柄 ファーストコーポレーション (1430・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
1430	100株	公募: 25.25万株 売出: 39.00万株 (OA9.63万株)	1,530円~1,600円 (8.9倍)	みずほ証券



飯田グループと関係密接、分譲マンション特化の建設工事が主力

■ 事業内容

分譲マンションに特化した建設工事が主力。事業エリアを東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）に限定し、工法を鉄筋コンクリート（RC）による建設工事に特化することで、施工品質の均一化や施工工程の効率化を図っている。受注は競争入札による獲得に加えて「造注方式」も導入。これは、同社自身が土地情報の収集、マンション用地の確保、マンション建設をはじめとする事業企画を作成し、複数のデベロッパーに提案して建設工事を特命で受注するもの。デベロッパーと対等の立場で交渉できるため、競争入札より高い利益の確保が可能になるという。分譲マンション建設事業の単一業態。

■ 特徴

筆頭株主の飯田一樹氏は、「パワービルダー」の生みの親と呼ばれる飯田グループ創始者である故飯田一男氏の長男。飯田グループとの結びつきは強く、設立当初は一建設やアーネストワンなど飯田グループのデベロッパーからの受注が100%だった。その後は他のデベロッパーとの取引が増加し、15年5月期第2四半期累計期間（14年6～11月）では飯田グループ向けの比率は40%程度まで低下している。

アナリストコメント

■ 定量分析

15年5月期の非連結経常利益は前期比2.8倍の7億2,124万円を計画する。業界全体には消費増税前の駆け込み需要の反動も出ているが、同社においては独自路線の成長が継続している。同社の特徴でもある造注方式による受注比率が高まることで、利益率も向上する見通し。

■ 定性分析

好況に沸く不動産業界、特にマンション建設に特化したビジネスを展開。不動産株はIPOマーケットにおける人気業種とは言い難く、15年2月には不動産投資のファーストブラザーズのIPOも不発。ただ、同社は業績成長率の高さなど評価材料が多く、大きな不安はなさそうだ。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約11.8億円。特段の荷もたれ感はなく、ベンチャーキャピタル保有株もないため、需給面に大きな不安はない。3社同日上場による資金分散懸念はあるものの、公開価格を割り込む可能性は低そうだ。（小泉健太）

■ 類似企業

ファーストコーポレーション (1430・マザーズ)	予想PER8.9倍 (仮条件上限)
新日本建設 (1879・東証1部)	予想PER8.4倍
長谷工コーポレーション (1808・東証1部)	予想PER14.7倍

■ 引受証券

みずほ証券、SMBC日興証券、いちよし証券、SMBCフレンド証券、岡三証券、マネックス証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
13年5月期(実績)	3,421	2.1倍	48	5.3倍	22	7.3倍	9.3	—
14年5月期(実績)	7,187	2.1倍	257	5.4倍	162	7.4倍	65.6	—
15年5月期(会社予想)	13,401	86.5	721	2.8倍	453	2.8倍	179.5	—

※株式分割を13年5月(1株→100株)、14年12月(1株→30株)に実施。13年5月期、14年5月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
13年5月期	82,622	1,657	64	41	26.0	3.9	42.4
14年5月期	82,622	2,612	227	41	91.6	8.7	111.5

※13年5月期および14年5月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	飯田 一樹	832,500	30.37
2	中村 利秋	634,890	23.16
3	中村	314,880	11.49
4	斉藤 みさを	127,500	4.65
5	中村 莉紗	123,900	4.52
5	中村 建二	123,900	4.52
7	ファーストコーポレーション従業員 持株会	78,660	2.87
8	佐藤 和広	76,500	2.79
8	堀口 忠美	76,500	2.79
10	横山 一夫	22,500	0.82

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	中村 利秋
取締役 管理部長	小暮 隆
取締役 建築部長	横山 一夫
取締役 営業開発部長	岩本 國利
常勤監査役	藪谷 典行
監査役	楠見 恭造
監査役	諸橋 隆章

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO（※1）レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング（※2）が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。